

文化
の家

長久手町文化の家 情報誌



NAGAKUTE Cultural Center
Informational magazine

AUTUMN 2002
vol.15

CONTENTS

STRUCTURE / 施設点描	2
二重仕上げの建物外壁	
IMPRESSION	3
「自由に心遊ばせて」 井上幸子 / 人形劇団プーク	
特集	4
鑑賞から創造へ ~長久手の演劇~	
事業のみどころ(10月~12月)	8
公演 Pick up	
OTHERS	10
News & Topics Activities	
文化の家界限15	裏表紙

この情報誌では文化の家が行う事業や文化の家で展開されるさまざまな活動を紹介するとともに町の芸術文化情報をお知らせします。

Structure

施設点描

二重仕上げの建物外壁



文化の家の外壁は、構造体の外側にもう一重の外装を施す仕上げをしています。これは、日本古来の伝統として、大切なものを保存する土蔵の屋根や壁を保護するため、石や瓦などで二重の仕上げをしたことを応用しています。コンクリート打放しの上に、耐久性のあるパネルや石、アクリル樹脂などを用いて二重にすることで、建物全体に風格や表情を与えています。



Impression

「自由に心遊ばせて」 井上幸子 / 人形劇団プーク

9月14日、風のホールで行った人形劇団プーク「エルマーのぼうけん」の公演にあわせ、8月22日、23日の2日間、片手づかいの人形を作り、動かしてみる「人形劇わくわくワークショップ」を行いました。講師の井上幸子さんにインタビューしました。

井上 幸子
人形劇団プーク劇団員、演出家、俳優
東京都出身

— 人形劇の魅力は？

人形劇は人間の芝居に比べ、小さなものから大きなものまでと、あらゆる「モノ」の表現の幅があり、人形の構造によって動きを誇張したり、省略したり、自由な表現をできる点が魅力です。

人間の動きをリアルにまねるのでなく、自由に表現しつつ、人形が存在をうそのないものまでにするは大変ですが、動かないものにだんだん命を与えていくことはとっても楽しいことです。

人間の心表現し、観ている人が自由に心遊ばせる芝居をつくり、観客と俳優とが共有する時間と空間を大切にしたいと思います。

— 人形作りワークショップでの子どもたちの様子はいかがでしたか？

子どもたちが人形を作っているときの集中力はたいしたもの、おとなが作るより、それぞれ違った個性のユニークなものがありました。

人形を動かすことは難しいのですが、自分が作った人形を動かすことは、心を遊ばせる楽しいことのようにです。ワークショップが終了した後も、人形をずっと離さずバクバク人形の口を動かし、タクシーを見送ってくれた子どもたちの姿が微笑ましく、嬉しかったです。





座 NAGAKUTE第6回公演「カレー屋の女」

特集
Special edition

鑑賞から創造へ ~長久手の演劇~

文化の家では、演劇に関して、鑑賞のための舞台公演のみにとどまらず、創造に向けて多彩な取り組みを行っています。今回は、文化の家を拠点に繰り広げられる演劇関係の事業について紹介します。

優れた演劇鑑賞の機会を提供

文化の家では、ホールで、年間約35本の自主事業を行っていますが、そのうち、約半数が演劇公演となっています。

森のホールの可変式の独自の舞台を生かして、蜷川幸雄のシェイクスピアシリーズなど著名な演出家やキャストによる公演を行ったり、中部地区ではここでしか見られないような、独自の視点で選んだ演劇公演を行ったりしています。歌舞伎などの伝統芸能は、レクチャーを交えた公演を行っています。来場者も町内にとどまらず、県内外広域にわたり、好評を得ています。また、ホール公演にあわせたワークショップなども積極的にを行っています。

町劇団「座 NAGAKUTE」結成

文化の家の建設以前は、長久手町での演劇活動は、ほとんど見られませんでした。

文化の家開館にあわせ、開館前の平成9年10月に「住民が演劇を学び、作品を制作、発表する機会を作り、地域の演劇活動の芽を育むこと」を目的とした、地域住民主体の町劇団「座 NAGAKUTE」が結成されました。

「座 NAGAKUTE」は、指導者に舞台美術家で演出家の内山千吉さんを迎えてスタートし、現在は、劇作家・俳優・劇団B級遊撃隊主宰の佃典彦さんが指導・演出を担当しています。

団員の年齢層は10代から60代までと幅広く、職業も、主婦、学生、サラリーマン、自営業とさまざまで、個性豊かなメンバーが、毎週金曜日に練習をしています。

「座 NAGAKUTE」の熱い取り組み

「座 NAGAKUTE」は、毎年新しい公演を1~2作品ずつ手がけてきましたが、平成13年度には、3本の新作公演を果たして、徐々に多くの作品を持てるようになりました。

平成11年度には、第14回国民文化祭岐阜'99に出演したり、福祉施設への慰問公演をしたりするなど町内外で盛んな活動を展開しています。

「座 NAGAKUTE」は、演じるだけでなく、舞台づくりのためのさまざまな役割を自分たちで行う取り組みもしています。衣装や大道具を制作したり、また、技術スタッフの技術指導を受けて、照明、音響に挑戦したり、さらには、文化の家フレンズの協力を得て、ホールでの接客の勉強をしたりしています。

過去には、町民から戯曲の題材を募集し、これを元に劇団指導者の佃さんが書き下ろした戯曲を公演したこともありました。

「座 NAGAKUTE」の公演記録

- 『彦市ばなし』『おんによる盛衰記』（平成10年 8月公演）
- 『楽しきかな憂さ晴らし』（平成11年 8月公演）
- 『わが町』『濯ぎ川』（平成12年 8月公演）
- 『ランブルペンと小さな魔女』（平成13年 8月公演）
- 『長久手町の奇妙な話』（平成13年10月公演）
- 『カレー屋の女』（平成14年 3月公演）

地域に根ざした劇団集合！地域演劇祭

文化の家では、「座 NAGAKUTE」をホスト劇団として、プロ・アマ問わず、地域に根ざした演劇活動をしている幾つかの地域劇団を全国各地から招いて、数日間にわたって集中的に公演を行う『長久手町地域演劇祭』を開催しています。

期間中、全国から集まった劇作家たちの講演会やシンポジウム、また、ワークショップ、バックステージツアーなど、いろいろな角度から、演劇への関心を深めるためのイベントや交流を行っています。

知名度やなじみがなくても、優れた劇団、とりわけ地域に根ざして着実に展開している地域劇団も積極的に紹介し、演劇の活性化につなげています。

第1回の地域演劇祭では、全国で最初に設立された公立劇団「兵庫県立ピッコロ劇団」と名古屋の人気劇団「劇座」の招聘公演を行いました。

第2回は、西からは北九州市を拠点に活躍し全国に発信している「飛ぶ劇場」、東からは青森県弘前市の青森弁の口語演劇をする「弘前劇場」の招聘公演をしました。あわせて開催したワークショップでは、「演劇に必要な体の動かし方、歩き方」「与えられたテーマでの即興スピーチトレーニング」を、また、シンポジウムでは、地域の演劇事情についての語りなど盛りたくさんの内容でした。

第3回は、地元、愛知県で活躍する劇団にスポットをあて、プロ・アマ含め6団体による公演と参加劇団員の交流会を行いました。扶桑町で定期公演を続けている「劇団Beans」や、現在では、定期公演を行うまでに成長した当時学生の劇団「ホチキス」、また、遠方からは小規模の自治体ながら、演劇活動に力を入れている岩手県の「岩手ぶどう座」などの参加がありました。

第4回は、子どもにスポットを当て、親子で楽しめる演劇をテーマに公演を行い、あわせて、普段見られない舞台裏をのぞくバックステージツアーや、照明器具を使った実験、また、劇団員と舞台上で遊びながら演劇に親しむワークショップを行い、劇団員と観客の交流を試みました。



地域演劇祭 見たい舞台の裏側バックステージツアー(あかりの実験)



地域演劇祭 ワークショップ劇団員と舞台上で遊ぶ

地域演劇祭のあゆみ(公演日順)

第1回 平成10年8月~9月

- 劇座 『決定版 力道山』
- 兵庫県立ピッコロ劇団 『さらって行ってよピーターパン』
- 座 NAGAKUTE 『彦市ばなし』『おんによる盛衰記』

第2回 平成11年8月

- 弘前劇場 『あの川に遠い窓』
- 飛ぶ劇場 『シンデレラ』
- 座 NAGAKUTE 『楽しきかな憂さ晴らし』
- シンポジウム 『地域演劇事情にしひがし』
- 演劇ワークショップ、ポスター展示

第3回 平成12年8月

- 座 NAGAKUTE 『わが町』『濯ぎ川』
- 劇団Beans 『天使は瞳を閉じて』
- 劇団米嚙調査 『幸の部屋』
- ホチキス 『宇宙な男2000』
- 劇団岩手ぶどう座 『うたよみざる』
- 少年王者館 『自由ノ人形』
- 交流会

第4回 平成13年8月

- 座 NAGAKUTE 『ランブルペンと小さな魔女』
- 演劇人冒険舎 『南の丘の大きな切りかぶ』
- 愛知県立大学人形劇サークルとびねこ
- 『うさぎどんときつねどん』『ニコラスどこにいったの?』
- 兵庫県立ピッコロ劇団
- 『選ばなかった冒険 光の石の伝説』
- バックステージツアー(あかりの実験)
- 子ども演劇ワークショップ



長久手演劇王国「ふたりトークSHOW」
はせ ひろいち / 劇団ジャブジャブサーキット代表
日本劇作家協会東海支部長 文化の家 戯曲セミナー講師



長久手演劇王国「ふたりトークSHOW」
土田 英生 / 京都の劇団、MONO代表、
劇作家・演出家・俳優

どんどん広がる演劇の輪！長久手演劇王国

文化の家では、「地域演劇祭」とは別に、毎年、地元を代表する劇作家の公演を「長久手演劇王国」と題して行っています。平成12年度からは、日本劇作家協会東海支部とタイアップし、所属の劇作家から寄せられた多数の興味深い短編を次々と上演しました。

ここでも、劇作家たちによるシンポジウムやトークショーが開かれています。この演劇王国は、劇作家たちの関心を集めて、年々大勢が参加するようになり、一方、戯曲セミナー受講生や劇団員はもちろん、遠来の観客も多数参加して、演劇の輪はどんどん広がっています。

長久手演劇王国の歩み

- 平成11年3月・劇団ジャブジャブサーキット『バクスター氏の実験』
- 平成12年3月・劇団B級遊劇隊『ある朝、10時ごろ』
- 平成13年1月・日本劇作家協会東海支部プロデュース短編7作品
・劇作家シンポジウム
1部『劇作家と劇団の関係を探る』
2部『地域演劇の現状とこれから』
- 平成14年2月・日本劇作家協会東支部プロデュース短編7作品
・トークショー『演劇と人生』ほか

講座 戯曲セミナー めざせ劇作家！

文化の家では、実習、練習系の創造空間アートリビングで、さまざまな講座を年間通して開講していますが、演劇関係では『戯曲セミナー』があります。

戯曲セミナーは、『劇団ジャブジャブサーキット』の代表で日本劇作家協会東海支部長のはせ ひろいち氏を講師に迎え、戯曲、シナリオ作りを学んでいます。このセミナーは、開講して4年目になりますが、愛知県では珍しい講座で、プロの劇作家から初心者までたくさんの方が受講し、長野県、滋賀県、岐阜県など県外からの受講生もいます。

年度末には受講生の作品の中から、優秀作を4~6本程度選び、受講生自らが公演を行います。戯曲を書くだけでなく、実際に演技を体験することもしています。

受講生の中には、仙台、愛知の戯曲賞で入賞するなど、プロとして歩みだしている方もいます。



戯曲づくりに励む戯曲セミナー受講生

戯曲セミナー特別講座体験レポート

今年の夏、京都の劇団「MONO」の『きゅうりの花』公演にあわせ「戯曲セミナー特別講座」を開催しました。「MONO」代表で、今話題の劇作家土田英生氏を講師に迎え、戯曲を書く面白さ、コツ、即興課題など盛りだくさんの内容の講義を行いました。

土田氏は、こんなふうには語っていました。

「戯曲を書く上で、基本的に大事に思っていることは、『表現することは、とても、我がままなことだと自覚すること』。だから、自分の都合のいいように書いたものを人にわかってもらう努力をしなければいけない。

自分の伝えたいことを会話を通して「さりげなく」伝える。そんな会話選びが、戯曲づくりの基本です。

観客に疑問を持たせ、参加させ、解決させることが大切です。」

セミナーではこんな課題が出されました。

登場人物は、2人。微妙な男女。5年前に別れたことが、わかるように、5行でセリフをかく。ただし、5年前という直接の表現は使わない。

みなさんも挑戦してみてください。



受講生も出演した戯曲セミナー優秀短編公演

~受講生の声~

限られた時間の中で書くのは、難しかった。
土田さんの話は、楽しく、分かりやすかったです。
自分の考えが広がった気がしました。

歩みだす 住民主体の取り組み

文化の家には、事業倶楽部事業というシステムがあります。これは、文化事業を住民が自分で企画運営し、文化の家が会場提供、チケット販売、広報などのノウハウを提供し支援する、という住民主体の取り組みをねらった制度です。これまでの実績として、演劇では、保育士や地域の方が主体となり、こんにやく座のオペラ『森は生きている』（平成11年12月）、『口は、ロボットの口』（平成14年3月）岸座の『フォーティンプラス』（平成13年9月）などの公演を行いました。

また、自主事業以外にも、ホールや舞踊室などでは、演劇の鑑賞団体が、例会やイベントを行ったり、地元の大学の人形劇サークルや、いくつかの劇団が、演劇の練習をしたり、公演を行ったりしています。



長久手演劇王国 劇作家シンポジウムin長久手

さらなる発展を目指して

以上のように文化の家では、演劇に関してさまざまな取り組みが行われています。文化の家をとおして、演劇に関わる人口は、確実に増えています。

今後も、地域住民や各種の劇団、演劇関係者、近隣のホールなどのネットワークを大切にして、舞台公演、シンポジウム、ワークショップなど演劇に関する事業を多面的に展開していきます。そして、文化の家を拠点に鑑賞者と創造者が共に育まれ、広く発信されることを目指していきます。



地域演劇祭 演劇人冒険舎の公演



宝くじ文化公演 かぶきとはもだち

感性あふれる参加型イベント充実

～オペラレクチャー・コンサート、合唱団、文化の家フェスティバル～

オペラレクチャー・コンサート 「カヴァレリア・ルスティカーナ」

とき:10月20日(日)午後3時開演
ところ:森のホール
料金:前売2,000円(学生1,000円)、当日2,500円

全自由席

チケット
発売中

オペラをより身近に感じられたと、文化の家開館初年度から好評を得ているオペラレクチャー・コンサート。今回は、オペラの先駆的傑作「カヴァレリア・ルスティカーナ」を上演します。オーディションで選ばれた地元鋭い声楽家と町合唱団ニューセンチュリーコーラスNagakuteが、華麗な舞台を作り上げます。

演出・構成:大下くみこ

指揮:山田信芳 解説:毛利和雄 ピアノ:甚目裕夫

出演:渡辺まみ、中井亮一、谷田育代、安田健、中須賀悦子、

ニューセンチュリーコーラスNagakute



平成13年度オペラレクチャー・コンサート セヴィリアの理髪師

ニューセンチュリーコーラスNagakute第5回定期演奏会

とき:12月1日(日)午後2時開演
ところ:森のホール
料金:前売1,000円、当日1,500円

全自由席

チケット
発売中

結成から5周年を迎えた町合唱団ニューセンチュリーコーラスNagakute。5回目の演奏会となる今回は、3部構成で日本の歌とイタリアオペラを取り上げます。約50人の合唱団員とソリストたちが美しい歌声を響かせます。

第1部 心の四季

第2部 花に寄せて

第3部 オペラ カヴァレリア・ルスティカーナ 抜粋

指揮:山田信芳



平成13年度ニューセンチュリーコーラスNagakute 第4回定期演奏会

第4回長久手町文化の家フェスティバル

とき:12月10日(火)~15日(日)
ところ:森のホール、風のホール、展示室ほか
料金:無料(パフォーマンス部門は実費)



平成13年度第3回長久手町文化の家フェスティバル(舞台部門)

文化の家利用者の祭典である文化の家フェスティバル。4回目を迎える今回も舞台と展示、パフォーマンスの3部門で、日ごろの練習の成果を発表します。舞台では、軽音楽や室内楽、ダンスなど、展示では、絵画や陶芸、絵手紙など、さまざまな文化活動の成果が披露されます。これから文化の家で何かを始めようと思っている方もぜひ見に来てください。



平成13年度第3回長久手町文化の家フェスティバル(展示部門)飾りつけ

「名演への招待」シリーズ3 ザ・ハーブ・コンサート

「スペイン慕情」全指定席

チケット
発売中

とき:10月12日(土)午後6時30分
ところ:森のホール
料金:前売、当日3,000円(学生1,500円)

「名演への招待」シリーズ3では、器楽合奏の原点ともいえる17世紀の古楽器集団の登場です。ザ・ハーブ・コンサートはヨーロッパ各国の各分野の名手6人で構成されたグループで、17世紀ヨーロッパの宮廷音楽や民族音楽、またフラメンコやバレエのルーツになったダンスなどさまざまな要素が入り交じった当時の即興を中心とした音楽を演奏します。関連企画として、グループの花形であるスティーブ・プレイヤー氏によるダンス・ワークショップと、アトリピング講座・美術史「スペインの光と影」～スペインのパロック美術をとおして～を行います。



17世紀スペインの歌と踊りを情熱的に繰り広げるザ・ハーブ・コンサート

みしろまさし 三代真史ジャズ舞踊団

「BLACK BELT」全指定席

チケット
発売中

とき:11月16日(土)午後6時
11月17日(日)午後2時
ところ:森のホール
料金:前売2,500円、当日3,000円



名古屋市を拠点に、ヨーロッパツアーをはじめ世界中で精力的に公演を行っているプロダンスカンパニー「三代真史ジャズ舞踊団」の登場です。三代真史と芸術監督坂本久美子が「オンリーワン」を合言葉に明確な自己主張をもつ個性的な作品をお届けします。卓越したダンス技術とアクロバティックな舞台をお見逃しなく。

チケット購入方法

公演のチケットは、文化の家、Nピア、チケットぴあで扱っています。文化の家でお買い求めの際は電話予約もでき、1週間以内にお支払いいただくか、現金書留で送金して下さい。詳しくは、お問合せ下さい。

文化の家チケット専用電話	0561-61-2888
長久手町サービスコーナー(Nピア)	0561-63-9200
(アピタ長久手店2階)	
チケットぴあ	052-320-9999

各事業の詳しいことやこちらに掲載した以外の事業については、公演ガイドをご覧ください。文化の家にお問い合わせください。

夏休みワークショップ

～腐敗で遊ぼう!～

～人形劇わくわくワークショップ～

～竹の家を作ってみよう!～

文化の家では、夏休み期間中、3種類の子どもの体験講座を開講しました。企画展や舞台公演にあわせたワークショップや工作教室で、子どもたちは、それぞれ熱心に取り組んでいました。

腐敗で遊ぼう!



自分たちで採ってきた植物を今後の変化に期待しながらリンシードオイルに閉じ込める作業をしました。

人形劇わくわくワークショップ



みんな違う個性あふれる人形を作り、劇団員から動かし方を学びました。

竹の家を作ってみよう!



のこぎりとひもを使って大きな竹の家を作りました。

みんなで響かせたゴスペルの歌声 ゴスペル公演大好評

7月14日(土)森のホールで「SOUL OF VOICE ゴスペル in NAGAKUTE」を行いました。ゴスペルグループ、アノインテッド・マス・クワイヤーとダンスユニットなどのほか、ゴスペル講座受講生約90人も出演し、総勢200人を超える迫力ある舞台となりました。5月から9回の練習を経て舞台上に挑んだ受講生らは、舞台での出演の後、2階客席からも歌声を披露し、舞台と客席がまさに一体となった公演となりました。公演終了後、受講生らによる自主サークルが誕生し、今後の活動が期待されます。



SOUL OF VOICE ゴスペル in NAGAKUTE

とても楽しくて、講座のある日が楽しみでした。舞台上立つことは初体験で、ワクワクドキドキでしたが、人数が多かったのでそんなに緊張することもなく楽しめました。

(安井みつ子さん)

ひとりで参加したので、初めは戸惑いでしたが、声をかけてくださる方々がいて心強かったです。講座は充実していて講師やアシスタントの方に引っ張られて楽しく一生懸命やりたいという気持ちになりました。公演では、みんなと一緒に歌えることがうれしかったです。

(関根美幸さん)

一般的なコーラスと違って心から歌う楽しさを味わいました。この年で今はやりのゴスペルなんて歌えるのかと臆する気持ちもありましたが、先生の楽しい指導のおかげで心地よい緊張感を味わうことができました。

(辻キミ子さん)

私のような初心者でもライトを浴びる快感を味わうことができありがたかったです。つくづく舞台は観るものではなく立つものだと思います。

(久保田晴子さん)

華麗な歌と演出に大満足 フレンズのつどい

8月3日(土)森のホールで、フレンズのつどいが行われました。8回目を迎える今回は、シャンソンの妖精の3人とアコーディオン名手、近隣の大学の社交ダンス部員などによる華やかな公演となりました。フレンズ会員など約400人が来場し、美しい歌声や色とりどりの衣装など魅力ある演出を楽しんでいました。公演終了後には、出演者とフレンズスタッフらとの交流会が開かれました。



シャンソンの妖精 - 世界の心をうたう

アクティビティ

おかあさんコーラス 全国大会出場

コーロ・リベルタ

コーロ・リベルタは、結成から6年目を迎えた、名古屋市周辺に住む女性12人で活動している合唱サークルです。毎週1回、指導者の盛かおるさんを招いて、ア・カペラ曲を練習しています。これまで文化の家フェスティバルの舞台部門に出演して、歌声を披露しているほか、各種のコンクールに出場し、好成績を修めています。この夏に行われた「おかあさんコーラス大会」では、全国大会に出場し、優秀賞である「ひまわり賞」を受賞し、歌声を全国に響かせました。『小人数ならではの苦労もいろいろありますが、いつも笑いのたえない仲間と盛先生とともに、充実した練習を重ねています。今回の賞を受賞できたことは最高の喜びです。』と代表者は話しています。

活動日時 / 金曜日 午前・午後
場所 / 文化の家 音楽室
連絡先 / 祖父江 恵子 052-773-2238

活動日時、場所等は変更になる場合があります。



このコーナーでは、文化の家を拠点に活動するグループ・サークルなどを紹介します。



編集後記



異常な暑さが続いた8月の一夜、風のホールで京都の劇団「MONO」の公演をみた。作者で演出もされた土田英生さんは自ら役も演じられた。終演直後、感動へのお礼をと楽屋を訪れた。だが、土田さんの姿は楽屋にはなく、舞台裏でヘルメットをかぶり、金づちを手にして舞台セットの「ばらし」に汗を流しておられた。

「劇団じゃ、当たりまえのこと。片付けせえへん理由がないもんなあ。」と、土田さんは、楽屋の掃除までして帰っていかれた。「中央」の演劇とは一味違うファミリアな地域劇団の元気の秘密を垣間見たような気がした。

終演後の「ばらし」も清掃も、「創る」ことに直結していて、～芸術はただ書けばいい、演じればいいのではない、人間性の深まりへの汗も肝心なんだ～と、暗に語っておられたのだと思う。手不足を補うことにもなるだろうけど、真夏の夜にあっけらかんとその汗を流しておられて、これは、文化の家の心として留めたいものと思った。

文化の家 館長 川上 實

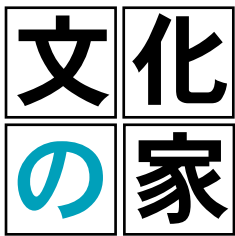


石作神社

文化の家から東北東1.2kmほどにあるこんもりと茂った森の中に石作神社があります。石作神社は岩作地区の氏神です。秋には、飾り馬を仕立てて神社に奉納する祭礼、『馬の塔(オマント)』が行われ、馬の塔を警固する鉄砲隊や棒隊が列を作り、町内を行進し火縄銃を一斉に発砲します。神社に着くと、棒や太刀、鎌などを使って演じる伝統芸能、『棒の手』が奉納されます。

長久手町内には数百丁の火縄銃があり、日本一の保有数と言われています。『岩作のオマント』『長久手の棒の手』はいずれも、愛知県無形民俗文化財に指定されています。

住所：愛知県愛知郡長久手町大字岩作字宮後17番地
お問合せ：長久手町教育委員会 社会教育課 0561-63-1111



長久手町文化の家 情報誌

発行／長久手町
編集／長久手町文化の家

お問合せ

長久手町文化の家

〒480-1131
愛知県愛知郡長久手町大字長湫字野田農94番地1
tel.0561-61-3411 fax.0561-61-2510 チケット専用/tel.0561-61-2888
<http://www.bunka.nagakute.aichi.jp>

- 事業、舞台技術に関すること・・・事業係
- 施設利用、フレンズ、情報誌に関すること・・・管理係

休館日 = 月曜日(祝祭日の場合は翌日)及び年末年始
開館時間 = 午前9時～午後10時

交通アクセス

- 地下鉄東山線藤ヶ丘駅から車で5分
- 地下鉄東山線藤ヶ丘駅下車、名鉄バス2番乗り場、長久手郵便局前下車、徒歩8分
- 地下鉄東山線藤ヶ丘駅下車、N-バス[Fルート]文化の家下車すぐ
- 名鉄バスセンターから名鉄バス、長久手車庫行き、西島下車徒歩10分
- 東名高速道路名古屋インターから車で10分

